

# 病害虫情報(第11号)3月予報

令和5年3月2日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1  
【カンキツ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、春キャベツ】
- II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 7

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和5年2月22日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 3月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【カンキツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			◆防除のポイント
かいよう病 (中晩柑類)	—	○	(予) コサイド3000 [発芽前, -] 1,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予) ICボルドー66D [-, -] 25~200倍 等
			◆ ICボルドー66Dを発芽後に使用する場合は、アビオン-E1,000倍を加用する。また、マシン油乳剤との近接散布(2週間)は避ける。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等
			◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ◆ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### 【ウメ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			◆防除のポイント
かいよう病	—	○	(予) コサイド3000[硬核期まで, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 等
			◆ 強風雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛ける。
灰色かび病	—	○	(予・治) ポリベリン水和剤[30日, 3回] 1,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 等
			◆ 花びらが散り、萼(がく)が残っている落弁期に防除する。
灰星病	—	○	◆ 灰星病は花から感染し、枯れた枝が翌年の伝染源になる。枯れた枝は萌芽期から新梢展開期が発見しやすいので剪除する。
アブラムシ類	—	○	チェス顆粒水和剤 [21日, 2回] 5,000倍 スミチオン乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 等
			◆ PPV(ウメ輪紋ウイルス)の感染が県内の一部の地域で確認されており、新たな感染を防ぐためにはアブラムシ類の防除が重要である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病虫害情報

(令和4年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【チャ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
もち病	並	○	(予)ドイツボルドーA [14日,-] 500倍 (予)コサイド3000[14日,-] 1,000倍 等 ❖ 前年の多発園では必ず散布する。
カンザワハダニ	やや多	○	【萌芽前】 オマイト乳剤 [14日,2回] 1,500～2,000倍 【開葉後】 バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 等 ❖ 初期防除に重点をおく。 ❖ バロックは、ラベルを確認のうえコサイドとの近接散布を避ける。 ❖ ダニゲッターは、覆下栽培では萌芽前に使用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和4年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日												
葉かび病	並	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日,3回] 灰色かび病、葉かび病:1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 灰色かび病、葉かび病:2,000倍 うどんこ病:2,000～4,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 灰色かび病、うどんこ病:2,000倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] うどんこ病:500倍 等												
コナジラミ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍												
オンシツコナジラミ	並	○	アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ :1,000～2,000倍												
タバココナジラミ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類:300倍												
アザミウマ類	並	○	ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類:500倍 等												
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 花殻や枯れた葉先は除去する。</li> <li>◆ 多湿にならないように管理する。</li> <li>◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。</li> <li>◆ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回</li> <li>◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施設開口部(出入口、天窗等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。</li> <li>◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。</li> <li>◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。</li> <li>◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。</li> </ul>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
【使用時期】「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ベストガード水溶剤(10日)、アニキ乳剤(1日)、ポリオキシシンAL水和剤(1日)

# 病害虫情報 (令和4年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや多	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等 ◆ 過湿になると多発する恐れがある。午後は換気に努める。
うどんこ病	並	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥は発生を助長するので、過乾燥に注意する。
アブラムシ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍
コナジラミ類	並	○	コナジラミ類:2,000倍
オンシツコナジラミ	並	○	カスケード乳剤 [前日,4回]
タバココナジラミ	並	○	ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍
アザミウマ類	やや多	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍
ミナミキイロ	やや多	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍
アザミウマ	やや多	○	ボタニガードES [発生初期,-] 1,000倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。
ミカンキイロ	やや多	○	
アザミウマ	やや多	○	

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類

- ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。
- ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的。なお、アザミウマ類には青色粘着板を使用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和4年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 10～15g/10a/日 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000～1,500倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。
うどんこ病	やや少	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 等 ◆ 発病部位を速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。 ◆ 窒素過多や草勢低下のときに多発しやすいので、適正な肥培管理を行う。
アブラムシ類	並	○	バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] 5,000倍
オンシツコナジラミ	並	○	エコピタ液剤 [前日, -]
タバココナジラミ	並	○	アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍
			粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等
アザミウマ類	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] 5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日, 3回] 1,000～2,000倍 ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 等
ハダニ類	並	○	ダニサラバフロアブル [前日, 2回] 1,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: バリアード顆粒水和剤・エコピタ液剤・粘着くん液剤・ボタニガード水和剤・ファインセーブフロアブル(1日)、スピノエース顆粒水和剤(2日)

# 病害虫情報 (令和4年度・第11号・3月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【春キャベツ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
灰色かび病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 —	○	(予) セイビアーフロアブル20 [3日,3回] 菌核病: 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍
菌核病 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや多 並	○	等 ❖ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、発病株は早期にほ場外で処分する。 ❖ 灰色かび病の発病部位は、見つけ次第除去する。
コナガ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	やや少 並	○	アニキ乳剤 [3日,3回] コナガ: 1,000~2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日,2回] コナガ:1,000~2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
ネギアザミウマ 【三浦半島地区】 【横浜・藤沢地区】	— —	○	等 エスマルクDF [発生初期(但し,前日),—] コナガ:1,000~2,000倍、ネギアザミウマ:1,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和4年度・第11号・3月)

神奈川県農業技術センター

## II 3月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 3月の気象予報(気象庁 2月21日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	20%	40%	40%

\* 2月23日発表1か月予報による

### (2) 3月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
チャ	もち病	少	並	1) 前年9月の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 前年10月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	少	やや多	1) 前年10月の巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 前年10月の県予察ほ(寸沢嵐)調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	葉かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和4年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (－):少発要因



# 病害虫情報

(令和4年度・第11号・3月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和4年度・第11号・3月) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	菌核病	－	並	1) 昨年11月の秋冬キャベツでの巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	－	並	1) 横浜のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
春キャベツ (三浦半島地区)	灰色かび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	菌核病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回